

令和2年度第1回輪之内町総合教育会議

日時：令和2年11月20日

19時00分～

場所：輪之内町役場公室

1. 町長挨拶
2. 教育長挨拶
3. 議事録署名者の選出
4. 協議事項等
 - (1) 各種計画等の確認及び見直しについて
 - (2) 令和3年度教育課所管分予算について
 - (3) G I G Aスクール構想の加速による学びの保障について
 - (4) その他

輪之内町総合教育会議委員

町長	木野隆之	教育長	箕浦靖男
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	田中俊弘	教育委員会委員	市橋修
教育委員会委員	市橋肇	教育委員会委員	浅野千代子

輪之内町総合教育会議事務局

教育委員会 教育課長	野村みどり	教育委員会 教育課調査官	松井均
教育委員会 主任指導主事	北嶋盛久	教育委員会 主任指導主事	加納隆生
参事兼総務課長	荒川浩	総務課長補佐	岩田好弘

(午後 7 時00分 開会)

○野村教育委員会教育課長 皆様、こんばんは。

定刻になりましたので、ただいまから令和 2 年度第 1 回輪之内町総合教育会議を開催いたします。

初めに、町長より御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

1. 町長挨拶

○木野委員 今日、第 1 回の総合教育会議ということでお集まりをいただきました。

それで、今、コロナの関係でいろいろとどこも大変な状況ですので、教育会議の中でも、現在の学校の状況についての忌憚のない御意見もお伺いしつつ、ルーチンとして総合教育会議が担う役割もありますので、それらも併せてやっていただくということで、せっかくおいでいただいていますけれども、こういう御時世ですので、できるだけ効率的にやってもらいたいなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○野村教育委員会教育課長 ありがとうございます。

2. 教育長挨拶

○野村教育委員会教育課長 続きまして、教育長から御挨拶をお願いいたします。

○箕浦委員 こんばんは。

夜分お忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。

今、町長さんからもお話がありましたが、新型コロナウイルスの新規の感染者が増えています。全国では二千何百人というような数になっておるといふようなことで大変ですけれども、今まで輪之内の学校からは感染者は一名も出ておりませんが、今後も対策をきちんと取って、感染者を出さないようにやっていきたいと思っております。

昨日、校長会がありましたので、校長先生を通じて、特に学校の先生も人混みの多いところへ出かけて、感染すれば大変ですので、それも含めまして、児童・生徒の生活の仕方について指導するように話をしました。教室の場合は、2 か所は窓を開けて換気をするということ、これも何回も私言っております。それから健康管理、これは全ての人に言えることですが、大事にしていきたいと思っております。

もう一つ、学校のほうで今コロナの関係で、学校の学習の進捗の様子、進み具合を私も心配しております。この前も、校長先生に確認を取りました。年間カレンダーに沿ってきちんと今予定どおり進んでいるかということを確認しましたが、十分時間が取れておりますというような報告をもらっております。授業の遅れもないというようなことで今進めております。

卒業式は、今年度、一応予定どおり行いたいと思いますが、ただ進め方、来賓の方の参加とか保護者の参加とか、それにつきましてはまたこれから検討していきたいと思っております。

それと、学校の様子ですが、今年特にコロナ、コロナでいろんな活動が中止になったり、停滞してはいけないというようなことで、学校の様子を調べたり聞いたりしておりますけれども、福東小学校でいいますと、岐阜県のトップアスリートの出前授業をやったり、あと県の環境衛生技術センターのほうで水質検査の出前授業を受けたりをしておるようです。仁木小学校でいいますと、環境学習、これは総合的な学習の時間でやっています。また稲刈りも10月にやりましたと。今までのような活動をどんどん進められる範囲でやるように今進めております。そんなことで、今現在取り組んでおりますので、よろしくをお願いします。

○野村教育委員会教育課長 ありがとうございます。

3. 議事録署名者の選出

○野村教育委員会教育課長 次に、議事録署名者の選出です。本日の会議録署名は、市橋修委員さんと浅野千代子委員さんをお願いいたします。

4. 協議事項等

○野村教育委員会教育課長 それでは、協議事項に入ります。

初めに、各種計画等の確認及び見直しについて、松井調査官から説明をお願いいたします。

○松井教育委員会教育課調査官 毎回総合教育会議の折に、計画ものの確認と見直しということを見せていただいています。また今回もお願いをしたいと思いますけれども、お手元のほうに、幾つか計画ものを用意させていただいています。

それを全部やっているとまた大変ですので、それともう一つは、去年いろいろ見直しを行いまして、この令和2年3月に大幅な改訂をしております。それからどうなっているかということなんですけれども、いろいろ内容的にはそう特別見直すものはなかったということで、お手元のほうに各種計画等の確認及び見直しについてという横の表があります。

まず一番大事なことは、計画をつくったんだけど、学校で、当然新しい先生もお見えになりますし、そういったことで確認をしてもらうのが一番大事なことであろうということで、どんな状況でやっておるかということ各小・中学校に聞いてまとめたものがこの表であります。当然ながら4月の初めにやっていただいて、各計画等、輪之内町にはこういう計画があつて、こういう目標があつてということで、それぞれの校長のほうから職員会議等を通じてお話をさせていただいているという状況です。

それで、併せて修正箇所はどんなのかなということですが、教育振興基本計画の中で、

文言とか、記述の仕方とか、いわゆる内容的なことではないんですけれども、訂正があるということで、基本計画、3ページ、一番下から2行目ですね、空白があります。「児童生徒」の間に空欄があるので、これを詰めましょうという話ですね。

それから6ページ、これは学習の実施項目の②の情報活用能力の育成、ここが「学習習」となっておりますので、この文字が余分だよという話。

次に7ページの6行目に、「位置づけ」というのを言葉の統一で「付」という漢字表記に変えたいということと、14ページ、「あたたかい言葉がけ運動」、我々は、言葉がけ運動という社会教育の関係で言うているんですけれども、県のほうは「言葉かけ」という運動になっていますし、巻末のほうの語句の説明の中でも「言葉かけ」というふうに使っていますので、そこを統一していこうということです。

次、24ページですけれども、原本のほうを見ていただくと、文化会館にテニスコートの施設概要が載っています。同じく29ページのほうも、テニスコートのところに、施設の修繕とか改修をしておりますので、その表現が、この今見ていただいている横の次に、24ページのところでこういうふうに直すよというのを表記させていただきました。当然、テニスコートの内容になっていますので、これは明らかな間違いですので、直していこうというものですし、次の29ページの輪之内町テニスコートのほうは、平成14年2月に人工芝コート化していますので、全天候型アスファルト系コートではないということなので、このちょっと追記をしていきたいということで、その部分の改正をしていこうというものです。

一応、先ほども言いましたけれども、内容的な修正はほぼなかったもので、語句の訂正とか、明らかな間違いの部分を訂正して、今回の見直しをしていきたいということでもあります。

振興基本計画の次に、同じく振興基本計画、実施項目・指標編というのを準備させていただきました。我々が一番気になるのがこの部分なんですけれども、一応目標年度までの間で、我々としてどういったことをやっていかなあかんかというものを抜き書きして、抜粋でつくりました。

特に1ページ目からなんですけれども、今回いろいろコロナの関係がありまして、先ほども教育長が言いましたように、行事等が縮小されたり、中止されたりしております。そういったことで、今回の各学校年3回以上というものが、2019年度はやれておりましたけれども、今年度は少し回数が減っているというような状況も見受けられる。ただ、目標年度2024年度までにはそれは達成できるだろうということで、あえてここら辺りは修正しておりません。

それから次、2ページのほうへ行っていただくと、皆さん御存じのようにタブレット端末は児童・生徒全員に配備をされておりますので、2020年度末というのも繰り上げて早く出来上がっているということになります。

英語については、コロナ禍の中でも実際募集をして実施をしているということでもあります。
3ページのほうですね。

それから、5ページの指標です。これは先生方の勤務時間ということですが、おおむね45時間、小学校のほうは45時間以内というふうになっております。ただ、中学校は少しオーバーをしているという状況ですので、2024年度にはそのようにしていきたいというふうに思っております。

それから、7ページのところの資質・能力の育成というところですね。

全国学力・学習状況調査、正式にはそういう名前ですがけれども、我々は学テと言っているんですね。その質問項目の中で表されるパーセンテージなんですけれども、今回は、今年度に限ってはコロナの影響で、この質問紙とか、学テそのものが行われておりませんので、ここの数字は現段階では分かりません。来年度以降、そういったものが実施されていけば、ここの数字は表れてくるということになりますし、仮にこの学テそのものがなくなっても、その質問事項も今後はやっていこうという思いでもおります。そういった流れの中でやっているというものです。

これに関係するものが、9ページの自己肯定感・自己有用感というところ、現況値78.6、72.1、これは結構低いと言われているんですけれども、こういったことも今回の学テの関係の質問事項がないということで、少し数字が出てこないということにもなります。いずれにしろ、そういった場合には、ちょっと別の方法を考えていくことも必要だなというふうに思っております。

実施項目・指標についてもちょっと触れさせていただきました。

他の計画等については、お手元にありますように、特別修正等は我々のほうではありませんでした。よろしく願いをいたします。以上です。

○野村教育委員会教育課長 ただいま各種計画等の確認及び見直しについて説明がありました。御意見、質問等がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○野村教育委員会教育課長 では次に、令和3年度教育課所管分新規・主要事業検討事項について、私のほうから説明いたします。

令和3年度教育課所管分新規・主要事業検討事項を御覧ください。

新規・主要事業として15項目を上げました。

現在積算中の部分も多くありますので、金額につきましては変わる可能性があるということをお願いいたします。

それでは、簡単に説明いたします。

ナンバー 1. 地域学校協働活動推進事業は、今年度、新型コロナウイルス感染症対策により会議等の中止、延期もございましたが、来年度も引き続き事業を進めていく予定でございます。町地域学校協働本部に総括的推進員を 1 名、各学校本部に学校推進員を 2 名、協働活動支援員を 1 から 3 名、協働活動サポーターを 1 から 2 名を委嘱し、継続して実施いたします。

ナンバー 2. 社会科副読本改訂事業です。現在使用している教科書は全国版なので、地域についての資料や写真等が記載された副読本を作成し、学習に活用しています。教科書の改訂に合わせて、副読本を改訂する予定です。予算額は、印刷・製本費を計上いたしております。

ナンバー 3. 情報教育推進事業です。今年度、1 人 1 台タブレット等の購入は、小・中学校全学年において完了いたしました。来年度は、ICTを活用したプログラミング教育の授業、1 人 1 台端末活用の支援、ICT指導員の巡回訪問等の学校サポートを中心に、ソフト面を充実させていきます。

ナンバー 4. 同じく情報教育推進事業中、学習者用デジタル教科書導入事業です。紙教科書の内容を全てデジタル化した教材を 1 人 1 台端末で活用します。1 台の端末で教科書の内容を見ることができます。小学生 5・6 年生に 1 教科、中学 1 から 3 年生に 2 教科の予算計上となっております。

ナンバー 5. 英検受験料補助事業は、今年度と同様、小学生は 5 級以上、中学生は 4 級以上を受験する児童・生徒に年 1 回全額を補助する事業です。今年度同額を計上予定です。

ナンバー 6. 英語教育支援員配置事業です。現在、各小学校に 1 名ずつ支援員を配置しております。来年度も同様に配置し、英語教育に力を入れていきます。今年度同額を計上する予定です。

ナンバー 7. 多文化共生教室開催事業です。本年度の新規事業で日本語指導教室を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策により実施できませんでした。来年度は、多文化共生教室開催事業ということで、他国籍の方の転入に伴い、日常生活に必要な日本語及び生活マナー、ルールを習得する。また、外国籍の児童・生徒の学校授業等の支援のため、日本語教室を開きたいと考えております。月 2 回、1 回 3 時間程度をめどに教育委員会で開催予定です。指導員、サポーターの謝礼と消耗品費等を計上する予定です。

ナンバー 8. 特別支援員配置事業は、今年度と同じく、支援員を各小・中学校に配置することを予定しています。学校の実情に応じ、学習障がい、軽度の発達障がいのある児童・生徒の教育支援及び援助を行います。予算は今年度と同額でございます。

ナンバー 9. プラネットプラザ管理事業は、図書館・文化会館等の運営・利用ということで、今年度と同様、事業を行っていく予定です。金額も今年度並みの予算で積算をしております。

ナンバー10、夏休み寺子屋教室開催事業です。こちらも今年度の新規事業でしたが、新型コロナウイルス感染症対策により実施できませんでした。各小学校もしくは教育委員会で夏休み中に寺子屋教室を開催する予定です。夏休みに自習室を開室し、自発的な学習意欲を促進できるような場の提供を考えております。各小学校の常勤講師が講師として対応するので、予算計上はございません。

ナンバー11、留守家庭児童教室は、今年度と同様に開室をします。新型コロナウイルス感染症対策により、各校区の3教室から6教室に増室しておりますので、今年度を上回る予定で現在積算中です。

2ページ目をお願いします。

ナンバー12、防災士養成講座を中学校2年生を対象に行います。計上する経費としましては、今年度と同じく、テキスト代、講座の開催委託料、受験料、登録料を計上する予定でございます。

ナンバー13、学校給食です。学校給食総務管理事業、給食供給事業の2つの事業が予算化されております。学校給食総務管理事業は、主に会計年度職員の報酬、職員手当等と、印刷・製本費、消耗品費等の需用費や給食費納入通知書作成に係る委託料などです。給食供給事業は、主に給食賄い材料費、給食室消毒委託料や給食の調理業務、給食センター工事費等となっております。また、歳入として一般会計のほうで学校給食費分を計上します。今年度と同額で積算中でございます。

ナンバー14、ねんりんピック岐阜2021パターゴルフ大会開催事業です。ねんりんピック岐阜2021のふれあいレク大会として、輪之内パターゴルフ場にてパターゴルフ大会を開催いたします。全国健康福祉祭であるねんりんピックは60歳以上のスポーツ・文化の祭典ですが、今大会はふれあいレク大会として世代を超えた幅広い年代が参加できる大会です。この大会を契機として、輪之内パターゴルフ場の利用者の増加を図り、町民の健康増進に資すればと考えます。

ナンバー15、パラリンピック聖火フェスティバル採火式開催事業です。令和3年8月12日に輪之内町プラネットプラザ「オリンポスの山」にて、パラスポーツ選手による採火式を行います。採火した火は、他の市町の火と合わせて岐阜県の火となります。住民が東京パラリンピック2020に参画し、障害者スポーツへの理解を深める機会になるよう願っています。

以上が新規・主要事業でございます。よろしく願いいたします。

こちらについて御意見、御質問等がありましたらお願いいたします。

○田中委員 社会科の副読本いうて、以前つくってみえたやつですね、内容はよく見ていないので分らないですけど。

全国のところで教科書に輪中というのが出てくると思うんですけど、輪中があるので我々は

救われているんだけど、輪中がなくなると、どこの田舎や分からんようになるので、あそこの教科書に例えば白川村の合掌造りが出てくるとか、奈良県へ行けば古典に出てくる人の墓や何かがいっぱい出てくる。ここは輪中だけしか出てこないの、中学校の輪中というのと輪中と漢字がよく似ていて、ここだけでアピールできるので、副読本等で大きい字で明記してもらおうと、またお上の覚えもいかなど。消されてしまえば終わり、審議官か出版社の御意向で、消えてしまうので、消せないように、いろんなところに出していただいと、こういうところも一つの手かなど。

感想で申し訳ないですけど。異議はありません。

○野村教育委員会教育課長 ありがとうございます。

そのほか、よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

○野村教育委員会教育課長 では、次へ参ります。

G I G Aスクール構想の加速による学びの保障について、北嶋主任指導主事から説明をお願いいたします。

○北嶋教育委員会主任指導主事 では、「教育の情報化」推進計画という資料を御覧ください。

今年度から、G I G Aスクール構想の加速に伴いまして、1人1台端末が各学校に配備されることになりました。そのことも受けまして、今年度から3年間の「教育の情報化」の推進計画をこのようにまとめています。

テーマとしては、「1人1台端末」を活用した授業改善と情報活用能力の育成ということを大きなテーマにしています。

取り組んでいく大きな内容としましては3つです。

1つ目は、情報活用能力の育成です。児童・生徒に情報を適切に扱っていきける力をつけていくこと。

また、ICTを活用した授業改善ということで、教員が1人1台端末を有効に活用して、そして今までの授業から新しい授業の形を模索していくということ。

最後は、校務の情報化。働き方改革につながるようなICTの活用を考えております。

右側のほうに、今年度、来年度、再来年度ということで、さらに具体的にどのようなことに取り組んでいくかということを中心にまとめてありますが、大切にしていきたいことは、その少し下の太い四角で囲っているところですが、まずは定例教育委員会において達成状況についてはチェックをしてもらいながら計画を見直していくということ。トライアル・アンド・エラーで、どんどん先生たちには実践をしていただいとありますが、その中で、じゃあ今まだ何が不足しているのか、何が必要なのかということ、P D C Aサイクルでチェックをして

いきながら進めていきたいと思っています。

そして、実践と研究を繰り返すことで「だれもが使えるICT」を目指すといったところで、学校でとにかく使ってもらおうと、うまくいってもいかなくても使ってもらおうという姿勢を大切にしながら、その中で研究をしていく。それで、その情報を校内、あるいは学校間で交流することで、さらにICTをどの人も使えるようにということを行っていかうと思っています。その中に、やはり研修も必要になってくるかと思っています。

情報化を支える環境等については、下に書いてあるとおりです。

では、次のページを御覧ください。

これは、今年度の具体的な取組ということでまとめてあります。

左から、まずプログラミング教育の実践・検証について。こちらのほうは、もう既に各学校取り組んでおります。1年間に1人1実践、どの先生も1実践をして、それをレポートにまとめ、それを学校内、あるいは学校間で交流して、指導計画を作成していくことを計画しています。また、プログラミングの研修会のほうも、対象を絞りながらやっていかうと考えています。

真ん中、ICTを活用した授業実践ということで、端末の中には様々なソフトが入っています。そのソフトを有効に活用していくために研修を行っていきます。基本はどの先生にも研修を受けてもらいたいと思っていますが、状況に合わせて、今年度なかなか授業時数を消化していくのもいっぱいいっぱいなところもございますので、その辺りのところは状況も見ながら研修を行っていかうと考えています。

校務の情報化ということで、今入れているすぐメールから、今度はアプリになるすぐーという保護者用メール配信アプリを導入していくことを計画しています。

これらのことも、先ほども申しましたように実践をして、それを情報交流して、さらに広めて、深めていくというようなことで、課題を見つけながら3年度への取組に生かしていかうと考えています。

学校サポートということで、これは主にICT指導員、今年度から長屋先生に入っていますが、ICT指導員による、かゆいところにも手の届くような学校へのサポートを行っていかうと思っています。

学校支援ということで、学校のほうで、プログラミングの授業をやりたいんだけど、ちょっと1人では心配とか、あるいはどんな授業をやったらいいか正直分からないというような要請に応じて、学校のほうに出向いていきます。

また、巡回訪問として週に1度学校のほうを訪れて、その中でいろんなことを気軽に相談、そして指導、援助、サポートをしていくということを行っていきます。

また、ヘルプデスクやホームページの作成支援等については既に行っているところです。

一番下、環境整備につきましては、もう既に学校のほうで整備されたものもございますし、今途中のものもございますが、このような環境整備を行っていただきましたので、これを有効活用していくというソフト面の充実をこの後、そして来年度、さらにやっていこうと思っております。

次のページには、同じような形ですけれども、令和3年度の取組の具体ということでまとめてございます。

一番上のところは、先ほどと同じように研修等についての大まかな計画等が書いてありますけれども、こちらについても今年度の状況を見ながら、課題となるところを修正していきながら、この計画についても変えながら取り組んでいこうというふうに考えております。以上です。

○野村教育委員会教育課長 ただいまGIGAスクール構想の加速による学びの保障について説明がありました。御意見、御質問等がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○野村教育委員会教育課長 では最後に、その他ということで、何か御意見等がございましたらお願いいたします。

○田中委員 少し話がずれるかもしれませんがいいですか。

コロナの濃厚接触者関係で学校が休みになったり、クラスが休みになったかという話を聞いて、想定としては輪之内もあり得るわけやね。教育長さんが考えておってもらえるので、そのときにどうするかというのを、例えばインフルエンザやと5日間休みでしょう。それで、コロナの場合はどういうふうにしたらいいのかとかいうのは、県のほうでガイドラインか何かあるのかどうか分からないですけど、輪之内も考えておかなあかんなと思いました。

○箕浦委員 それについては、海津市ですね。

西濃の教育長会でも資料が出まして、そのときの学校の対応とか、保護者への対応とか、どういうふうに情報が入ってくるかという流れとか、まず最初に何をやったかという資料を校長先生方には渡しました。

それで、万が一、そういうようなのが発生した場合に、多分混乱する心配がありますので、想定はしているつもりですけれども、なかなか実際になるとどうなるか分かりませんが……。

○田中委員 決してそのときに今のコロナいじめみたいなふうにならんように、よろしくお願ひしたいと思います。

それからもう一つ、僕、笠松の刑務所へ、1週間に1回か、1か月に何回か行くんですけど、あそこは、もう数年前からですけど、インフルエンザがはやらないように、11月から3月か4

月いっぱいぐらいは外から来る人は、全員マスクをつける。今は中の人もつけているけど、効果があるみたいで、はやらない。はやったらニュースになるでね、施設やで。はやらないみたいで、マスクは非常に効果があるみたいですね。御参考までに。もっとマスクをやってもええなあと。

今日、はめているマスクは敬老会の代わりに配ってもらったマスクですけど、これは良い。これは紙のやつと同じよう息ができる。ちょっとマスクを重んじる話へ。以上です。

○箕浦委員 先ほどのコロナの学校で発生した場合ですね、例えば岐阜のほうで前、高校でしたか。

○田中委員 あったあった、高校。

○箕浦委員 数は少ないんですけども。その都度、情報が事務所からも入ってきます、どういふふうに対応したとかを書いて。その都度、学校へは伝えております。大事なことで、ね、一遍もう一度また。

○田中委員 ニュースには出んもんね、そういうの。

○野村教育委員会教育課長 そのほか、よろしいですか。

○木野委員 今の状況を聞いておって、何のために集まったの、これ。これで、はい、終わりましたじゃ何の意味もないよ。何か問題意識があるんじゃないの。

例えば今の話にしたって、じゃあコロナと町の福祉課のほうとどういう情報連携をして、両方から情報が来る。今、私が見ておっても、教育委員会関係から縦で下りてくるやつ、それから行政部局でこちらへ、福祉のほうへ縦で下りてくる分、その両方の情報交換というのは、今みたいな細かい話をやらないと全然分からない。

だから、その都度対応しますやったら何も会議をやる必要ないので。何のために、どこを押さえてということの基本方針としてつくっておいて、その部分について情報の交流をきちっとしましょうということをごどこかで合意していかないと、その場しのぎの、そんなのまともに動かない。ちょっと大丈夫かなと思って今心配になったんやけれども。

僕は、その部分についてはもう十分できていると。ただ、そういう情報交換の中での改善点というのは、やっぱり少し幅広く御意見をお伺いしないと、どこか漏れがあるかもしれないよねと。本当は、基本的にはこう考えていますと。これでいいですかねというぐらいの資料が出てこないと会議にならないよ。

今日、わざわざ総合教育会議という形の中で、いわゆる教育委員さんだけじゃなくておいでいただいた部分というのは、いつも話しているよりも拡大した中で何か出てくるんじゃないのと。そういう意見を引き出さなければ、会議の意味がないと私は思っています。

だから、さっきから物が言えんなどと思っておったのは、そういう意味なんやけど。そもそも

きっかけづくりとして、はなから入っていないから。駄目だよ、それは。と思いますが、そう考えているとおりのうまくいくなんていうことは、どこの場面でもないの、これ以上言うこともないけど。

コロナって、実際その端緒というのはもう1年も前から出ている。それが2月、3月になってわっと表へ出てきて、ロックダウンしましょうとか、学校休業しましょうとかいう形でばつと出てきて、1波が終わった、2波が終わった、今、3波が来ている。そのときに、1波のときの問題点は何、2波のときの問題点は何やったんやと、そこから見えてくるものが、第3波を事前に抑えるときにはどこの要素が必要なのかと。

さっきの話も一緒ですわ。感染した人が悪者になってしまって排除されるような話は絶対避けられないかん話なんやけれども、今何もせずにおったら、あの人感染したという話にしかならへんよ。そのときにどうやって手を打つの。それは今から考えていかなあかんことでしょう。

前よりも危険性が高いよ、正直言って。1波、2波のときよりもすぐ間近まで来ていますよ。たまたまここは出ていないんやけど、濃厚接触者だとか何とか、そういうものについては、実際にはいろんな情報が入ってきておる。たまたま陰性だったため表へ出ていないだけで。今日も出ています。

だから、議論のときにインナーとアウターは変えないかんのだけれども、限られた範囲で議論できる部分については資料をきちっと出した中でやらないと議論にならないと、いつも反省を伴いながら考えております。

ということがコロナとしては1つですが、その他もよろしいでしょうかね。

○野村教育委員会教育課長 はい。

○木野委員 さっきも言わなくて申し訳なかったけど、「教育の情報化」推進計画、これの中で、これはこのとおりなんですよ、何も異論はないんですけれども。これと現実の動きとどう関わってくるのという話なんだけれども、例えばここで書いてあるICTの指導員さん、これは先生の補助をするということですか。

○野村教育委員会教育課長 そうです。

○木野委員 補助だけなの。リーダーシップを取っているの。

○野村教育委員会教育課長 はい。

○木野委員 何を目的にICT指導員って置いたの。

それと、一生懸命やっていたおでよいことだと思っておりますけど、これにプラス輪之内が今までやってきたものとの関連性の中で、機器の整備については全国レベルのものは少なくとも入っていると思うんだけど、今までの蓄積をプラスアルファする中で、輪之内のICT教育として何を重点にするのと。見せ方の問題かもしれない。

それと、こういうものは、最近の推進計画って、アウトプットとしての達成率じゃなくて、アウトカムの達成率というのが非常に重視される状態になってきている。そういう意味の中で、変な話だけど、英語教育、3級を何人受験しました、合格しましただけじゃなくて、合格したものをどう使っていくのと。

それから、その資格を取ったときに、インセンティブをどう与えていくんやという話になったときに、これは思いつきで申し訳ないんやけれども、少なくとも英検の3級なり2級なりというものを取ったら、今度、今年は中止になっちゃったでいかんけれども、海外派遣のときに、それを必須条件にして、2級を取った人から優先するとか、そういうインセンティブを与えないとやる気にならないよ。そういったことが少し夢としてはめ込んであると楽しい計画になるんかなと。だからこそ輪之内の計画だという意味が出てくるかなと。

共通のプラットフォームについて、何も文句を言うつもりはありません。共通の土俵の上にプラスアルファとして町らしさというのは、今、地域間競争って、共通部分についてはそれほど差が出ていないんですよ。もう今は出る状況じゃないですよ。だから、プラスアルファの部分でどうやってらしさを出していくかということが今まさに問われている。これは教育だけじゃなくて、一般行政でもそういうことなんやね。実際同じように努力してみえるんですよ、みんな。でも、らしさが出ていないところは絶対評価されていない。何をやっているの、よそと一緒にじゃんという話になる。

だから、うちでも施策の打ち出し方の中で、これは絶対、本当は親が払うべきなのかもしれないけれども、試験ぐらいうちで面倒を見ましょうと。だったら、もっとどんどん、逆に言うと、補助していないところよりうちの受験率が高くないとおかしいよね。そうでなかったらお金を補助する意味がない。そういう意味で、施策効果というものをどういうふうに今まで理解して、だからそれを拡大発展させていこうとしているのか、ある意味スクラップ・アンド・ビルドやから、これはあまり効果がないんだったら思い切って削っちゃったっていいですよ。どうなのというのは、そういう話なんですよ。

○田中委員　ちょっと町長さんが言われたで意見を言ってもいいですか。

ICT指導員というのは何かなと思っておったんですけど、新しいことをやるときに誰か1人職員で詳しい人がいないと、一人一人仕事をしながらでは大変なので、リーダーシップを取れる人が要るということは分かる。ここまではいい。

タブレットを入れて1人1台コンピューターというのも、今、世の中のスタンダードになってきた。かつては輪之内はとて進んだところだったんですけど、今、よそと平準化してきてしまうと。そのときに、コンピューターで輪之内の名を上げようということのいいか悪いかとか、言いようによってはパソコン屋さんがもうかるだけではないかという話になってくるわね。

それではまずいので、先導できたらもう一手ぐらい大手をかけてもいいかなというのに、何を
していったらいいかというようなことを考える人がいないんやね。

それからもう一つは、僕、現役のときにホームページの重要性を察して、僕がおった学校は
岐阜市の直営校だったんです。市役所と対立したとき、世の中あり得るわね、組織というのは。
全く殺すわけにいかないので、教員は自分の飯を食わせてくれへんで、市長は、給料をくれる
だけで、自分の組織を守るためには、情報発信するにはホームページやなと思って、最後の手段は。

そうすると、輪之内のときに、今設備を整えているのに非常に親しく、いろんなことを説明
してもらってやっているんだけど、中にエンジンを持って、うちはこういうものを欲しいん
だと言えるように、あんたのところスペック持ってくるけれども、こういうやつのほうがもっ
とこういうやつがあるはずやで探してくれと言えるような、別に高いものを探す必要はないで
すよ、独自で。向こうも企業としての話があるので、ちょっと御無礼したいと言われたときに、
いや、それじゃあうちは別のところと取引して輪之内独自の道をつけますと言えるような人が
いないと、次のこのテーマがね、全国が全部タブレットをつけてくるという時代になったとき
に、輪之内という威勢がなくなってしまうわけね。それでも何となく輪之内町民としては、ち
よっといいところのリーダーシップがあるところにいたいね。それがいいかどうかを議論する
のは、どこかで一遍やっておかないと。

例えば今日テレビでやっておったのは、愛知県で豊根村というところが全員持っておるんだ
ってね、24人しか生徒がないんやけど。岐阜県で一番早かったのは多分白川村だわね。それ
に続くぐらい小さい町なので、輪之内ができたと言え言えるんだけど、でも独自のものが
欲しいよね。これをやっておるから彼らは強いんだと人が思うような、先行していたからこう
いうノウハウを蓄積できたとかというのが欲しいよね。予算担当の人がつくって、今まではこ
れでよかったんや。

でも、例えばですね、今、小・中学校を見ていると、スクリーンが格段によくなったわね。
皆さん、いろんなこと、先生たちが試行錯誤をしてやっていて、非常にきれいだよね。あれだ
ったら、僕らも教室の後ろで見ておっても絵が分かるし、多分生徒もよく分かると思うんやね。
あれはやっぱり何回か先生たちが試行錯誤をやってきた成果やね。よそはそれを見てやれ
るかもしれんけど、この苦勞してきたところは宝だよね。この苦勞がないと次へ行けないかな
と。

そうでないと、そうだとすると、国のつくってきたやつをこうやっていだけという、結
局パソコン産業を支えるだけになるので、支えるんじゃなくて、輪之内のお気に召すようなパ
ソコンをつくってきますとって持ってくるとぐらいでいかんと、理想は、思いだけは。とい

うことを僕思う。このICT指導員と今町長さんが言われたときに思ったのは。

今は誰か考える人がおって、こうやって情報をやらんといかんで、課長が全部やってやるわけにいけへんで、1人専門が要る、これは要ると思うんやね。でも、その先に見えているものは、僕はそういうものかな。理想論は何でも言えるけどね。

○北嶋教育委員会主任指導主事 実際は今ICT指導員に長屋先生に来ていただいています、ここにはサポートのこととかが書いてあるんですけども、実際は、この今推進計画等も出しているんですけども、こういうことについてもかなりいろんな意見をもらって、学校への研修のことや環境の整備についても意見をもらいながらやっているというのが現状で、今、国のほうでも補助金でGIGAスクールサポーターの補助金というのがあって……。

○田中委員 これとは違うんやね。

○北嶋教育委員会主任指導主事 これみたいなものなんですね。

○田中委員 これは独自でやっておるの、町単で。

○北嶋教育委員会主任指導主事 そうです。

それで補助金ももらえるような形で今進めているんですけども、ほかの市町は急いでとにかくGIGAスクールサポーターを配置しようと今動いているところ。でも、輪之内はもう既に今年度の頭からこういうような形で入っていただいて、そして推進もしていつているというところで、サポートだけではなく、全般について今もやっていただいているということが1つ。

ただ、町長さんも田中先生も言われたみたいに、今までの輪之内の蓄積してきた部分を生かして、さらに輪之内らしさをどこで出していくかといったところは、やっぱりまだまだ検討していかないといけないなというところですよ。

○木野委員 二番煎じで後を追っていくのは、実はかなりICTの世界では簡単なんですよ、二番煎じで追っていくのは。もう10分の1の労力で行けるはず。

でも、真っ先に先駆けてやっていくときに、その努力を誰がやった、どこでやった、システムのどういうふうにならせたかを位置づけてやってきたか、それが次のステップにつながるの、よそから輸入したものは輸入した部分しか動かないですよ。全体としては動かない、そんなもの。それは今まででもそうやった。何となく似通ったものはできるんやけど、全然迫力のないものになってしまうので、それはやっぱりある部分とんがっていないと駄目だろうと。

○田中委員 町長さん、いいこと言うけど、僕ら研究屋は、いろんな難しい最新鋭の分析機械があるが。あれが、大手企業が、売り出したときはもう終わっておるの。

僕の知り合いで大学にいた先生は、「こういう機械をつくりたいんやけど協力してくれんかね」というてバラックで持ってくるわけ。バラックというか、ちゃんときれいな箱に入っておらずに、こうやってくっつけてつくってくるわけ。それでやったやつが一番面白いところが終

わってしまうわけ。あと、それがセットになって何百万で売り出したときはもう終わっておるねん。一番最初るとき、そのときに成果を上げるので、これも多分そうやと思うんやね。一番最初にやった人が成果を上げるので、あとは町長さん言われるように二番煎じで同じような機械をやっておるといっただけで。

それで何やというと、結局それのとき苦勞して苦勞してやった人、スタッフがいることが財産なんやわ、輪之内の。そういうことやろう、町長さんが言うのは。

○木野委員 そうです。

○田中委員 それを買って行ってやった人は何も苦勞しておらへんで、そこまでパソコンの売上高に貢献しただけで、実のところはない。

○松井教育委員会教育課調査官 3月、4月にコロナのときに、実際に我々としたらZ o o mを、町長さんにも見ていただきましたけれども、Z o o mのいろんなことができたのも多分……。

○田中委員 これがあったでやて。

○松井教育委員会教育課調査官 指導員さんが見えたので、いろいろできたんやろうとは思いますが。

今ちょうど1人1台で端末が出てきたので、これからコロナがどうなっていくかは分からんですけれども、授業の中と、もう一つは急な休業が起きた場合にも対応できるように。

ただ、指導員さん1人で全部やれるわけではないので、そこは1つ弱いところなんです。うちには、I C T活用部会やったっけ。

○北嶋教育委員会主任指導主事 はい。

○松井教育委員会教育課調査官 活用部会という部会があって、そこにそれぞれの先生方が入っているんですね。その先生方が、I C Tに本当にたけているかといったら、一部の先生は確かにすごいたけている方が見えるんですけど、みんなが同じレベルじゃない。

となると、この前もその人たちに向かって研修をちょっと長屋先生のほうにやっていただいたんですけども、なかなかやっぱりね。

○田中委員 僕が思うに、先生は3年か5年で代わってってしまうので……。

○松井教育委員会教育課調査官 そうなんです。そこが……。

○田中委員 この庁舎の中にプロフェッショナルという人がいないと、僕、現役のときにそれを思った。学校の中でホームページを好きなように作れる人がおらんと情報発信できへんなど。

○松井教育委員会教育課調査官 それで、我々からすると、それは何をやったかということ、プログラミング教育のm B o t (エムボット) やったっけ。

○北嶋教育委員会主任指導主事 はい。

○松井教育委員会教育課調査官 m B o t とかいうのをを使って、ある命令を出していろいろ動か

していくという、そういう研修をやったんですね。私は無理ですけども、僕感覚からいうと、先生なら簡単にやっていくやろうという思いがあったんやけど、それもやっぱりいろいろ、先生の中にもやれる方も見れば、やっぱりいろいろ聞いてやられる方もあるし。

ということは、やっぱりそういう人を育てることがまず第一なんですね。ICT指導員さんもそうだけど、ICT推進員さんか、各学校の。

○北嶋教育委員会主任指導主事 はい。

○松井教育委員会教育課調査官 各学校の推進員さんをまず育てるというのも大事ですし、そんなことをやっておっても進んでいかへんで、今度はもう、この中にも書いてあるように、5年生担当を呼んでやるとか、6年生担当を呼んで研修をやっていくというのをどんどんやっつかないと宝の持ち腐れになっちゃう。

○田中委員 これはなかなか難しいところで、多分国はパソコンの産業を盛んにしたいだけやと思うんですわ。でも、それはそれ、国の論理としてそれはそれでいいとして、それをうちらとしては教育に活かさなあかんのやな。

○松井教育委員会教育課調査官 そう。

○田中委員 これをやったことによって生徒が、全国学テの平均点がいいとか、そのレベルじゃなくて、ユニークなやつが出てきたとか、10年に1人でもええで変なことをやるやつが出てきたとか、ビル・ゲイツを向こうに負かすようなやつが出てきたとかということのほうが大事かもしれんし、何が目指すべきものか知らんけど、いかに教育か何かそういうところに活かせるかということが、その未来像が何かというのがいまいち見えてこないでね。

○箕浦委員 ちょっといいですか。

私いろいろさっきから聞いていてと思いますが、やっぱり計画はこれで、方向は大体今つくっていただいた方向でいいと思いますけれども、これがうまく進めるように、そういう体制をつくらなあかんということで。

町長さんのさっきお話を聞いていて思ったんですけども、やっぱり現実を一遍眺めて、何に課題があるか、どういうふうにとみんなが使えるようになっていくかを実際の様子を交流したらよいかと思います。そういうような声、やっぱりそういう会議まで行かんにしる、研修も含めて、そういう場をできるだけつくらんと、担当者1人でつくって出しても回っていかんので、これが一番大事やと思うんです。

今1週間に1回から2回、いろんな生徒指導の問題が教育委員会に上がってくるんです。外部に出さないでおこうと思うような内容があります、個人的な関係のこともあります。関係者を集めて、いろいろ対策を検討してはやっております。

○田中委員 国はIT、タブレットを普及せい普及せいと言われるだけで、どう使うかという話

も、デジタル教科書に入れればいいのか、ソフトを入れればいいのかとおっしゃるんだけど、どういう人をつくりたいというのは言わんのやね。取りあえずの目標を、こういう生徒をつくりたいというところには出てこんのやね。

生徒をつくりたいというのは何やというたら、全国学テの点数のいい子をつくりたいとしか読めんでね、国の政策は。全国学テの点数がいい子で、これが国の例えばリーダーを養成できるかというたら、普通のサラリーマンとかビジネスマンを大量に養成することはできるけど、日本に今必要なのは何やというたら、とんでもないやつが欲しいんやね。製造業も今はもうちょっと頭打ちになってくるじゃん。今のICTとかいうのも、もう2番手、3番手になってきたでしょう、日本が。よその国が進んできて。プログラムみたいな発想をするやつもはるかに遅れているときに、日本に今求められているのは、1万人に1人か10万人に1人でもいいので、とんでもないことを考える人やね。ということも国は言わんのやね。国は何やというたら、算数の点数のいい子、読み書きそろばんのいい子、そんなもん僕らが中学校だった頃に言っていたのと変わらへんよ。

というところになると、こういうツールを使って少し輪之内町はどういうふうに生かしていくかというのを、誰か偉い人を連れてきて話を聞くんやなくて、ちょっと言いたいことを言うようなやつを連れてきて、ここでもない、どこかで検討して、あるいは先生たちでそういうことを思う人がおったら、そういうのを連れてきて検討して、結論は出ても出んでもええので、そういうのを何回か繰り返してつくっていかんと、偉い先生を連れてきて講演を聞いてみてもしようがない。

○木野委員 神様はいないんですよ。この人の言うことを聞いておれば間違いないなんていう人は、今そういう人はいない時代。

○田中委員 そういう時期やと思う、僕も。

○木野委員 ということは、逆に言うと、みんなの意見を結集しながらどこへ向かっていくんやということを考えざるを得ない。

さっき学力テストの話が出たけれども、これも考えようなんですよ。今、評価基軸としてそれが目標になっちゃっているから問題なので、何かをやらせたいという大きな目標があって、その手段として一断面で切り取ったときに学テの実力がどうなんだという、そういう組立てでやらないと、現場へ入っていくと手段が目標になってしまって、学テさえ上げればええんやろうと。それは本末転倒も甚だしいし、そんなんやったらやらんほうがいいんです。

それは逆に言うと、現場がそれをどう理解して、どう使いこなすかという話。そこがやっぱり、よく手段と目的を取り違えるとなかなかうまい結果が出てこんというけど、そういうことですよ、これは。

だから、ある部分、やっぱり皆さんに御理解いただこうと思ったら、かなり具体的なものを示さないと予算化するにもなかなか難しい。我々はよほどのことがない限り、予算要求されたものについて、殊に教育の部分について、切り刻んでこれをやるなどというなんてことは一切するつもりはありません。この小さな町で教育関係の予算、倍にしたって半分にしたってどうってことないですよ、はっきり言えば。そういう覚悟でもってやっているのに、何か知らんけれども200万、300万の話がごちゃごちゃなっちゃって、僕が聞きたいのはそういう話じゃなかった或者说ったことがあるんや。

今ちょうど予算のヒアリングをやっています。そうすると、これはどういう位置づけで、何のための予算なのという話になると、なかなか位置づけがはっきりしないものが多いというか、前年並みで来ると、前年並みはあまり例年のおりだと議論されない。本当はゼロベースでやらなあかんのだけれども、でもそんなこと、幾ら小さな予算やというてもペーパー1枚からカウントするような話はできないので、ちょっとその部分は前年並みならええわという話になってしまう。

逆に言うと、新しい提案がない限りは予算は増えませんよという話になる。新しい提案というのは目先さえ変えればいいという話じゃないので。僕は、何となくデジタル何とかというとか何か効きそうやなとかいう話になるんやけど、本当はどうなんやというて。

○田中委員 ちょこっと話をずらしたいんですけど、ごめんなさい、町長さん。

○木野委員 どうぞ。

○田中委員 僕、教育委員かれこれ10年になります。

それで、これは今になって気がついたかもしれんですけど、先生たちの授業を今日みたいに聞きに行くと面白いなというところがあって、1つは今日の先生ね、社会科の蒙古襲来をテーマにして社会科の授業をやられるんですけど、まるで報道特集か何かでニュースのいろんな場面を切り取ってきてつくったかのように、新しいやり方やね。僕、あの先生が社会と教員の世界で高く評価されるかどうかは分からない。けれども、新しい切り口やと思う。

それからもう一人、中学校の音楽祭で去年だったかおとしだったか、パブリカをやった先生がおる。あれ、面白い切り口でやるなと思って。あそこの音楽祭の中で、予定に入っていないところにコーラスか何かのクラブの生徒を連れてきて、練習から始めるんやね。あれ、面白いと思った。

それからもう一人、仁木小学校か何かのプログラミングか何かに行ったときに、女の先生で、2分前ぐらいに部屋へ見えて、じゃんけんやろうかとかいって生徒とじゃんけんをやり出すんやね。

それで、時間が来たらぱっと授業を始める。そうすると、子供の頭の中はもうその気になっ

てしまっているわね。いわゆるイントロダクションをやらなくてもいいわけやね。今日は勉強するぞとかと言わなくても、もうやる気になってしまっておる。聞いてみると、あの先生は、学生の頃からああいうのをやりたかったみたいだね。

これが先生んたみたいに優等生で来た先生じゃない人が新しい流れをつくっておるなど。これが県の評価としては優秀な人を輪之内へ送ったつもりなのか、外れを送ったのか分からない。でも、新しい流れ。僕は、教育の新しい流れやと思うんですよ。

今日も楽しく過ごしてきたんですけど、先生たちが一生懸命やっておる姿を、僕はこういうのを育てるのも輪之内の一つの方法やなど。過去には、やり投げの先生とか、ピアノで優勝した先生とか、いっぱい見えた。それから、中学生日記の先生のようなユニークな先生がいる。これを輪之内の売りにすると、そのユニークさを。今日の先生でも校長先生も高い評価をしてみえたけど、あれは出世していく段階でいろいろぶつかって苦労するなと思ったけど、あれを苦労させてもええので上手に挫折せんように育てるのは、さっきのじゃんけんとか、これも研究授業か何かでこういう老齢の先生からかあつと言われると思うけど、僕はああいうのが輪之内の色やなどと思って。全然違う話をして悪いですけど。

○木野委員 いやいや。先生の再生工場に輪之内になるなら一番いいと思います。

○田中委員 そうそう。新生でもええ、どっちでもええよ。

○市橋（肇）委員 ちょっと自分も意見をお伺いして思っただんですけど、何か教育って、今のような日本の教育の在り方と海外の教育の在り方がちょっと違うと。日本の教育って、やっぱり全体を平均点を上げていくというような教育にあって、田中先生が先ほどおっしゃったような、個を大切に、個を生かしていくという考え方というところへまだ来ていないんだと思うんです、現実。

こういう新しいものに対する対応の仕方というので、町長さんからは輪之内らしさとか、一歩ステップを上げたような何か目標に向かって進んでいくというところが大事なんだろうけれども、現実にやっている人たちは、今、ハウツーというか、ICT教育をやろうとしている、その手段の学習に取り組んでいる人材はまだ大半であって、そのステップを上げたところへ向かうだけのまだ用員が整っていない、環境が整っていないというのが現実だ。だから、そういう計画が出されているというふうに僕はちょっと受け取るんですね。

どうしてもある程度進んでいくと限界があって、これはうちの使っている用員ではかなわないわと。そうすると、その専門の人をちょっと入れてきて、人材的に補強しんらんわとか、そういうことにもなるし、逆にそういう人たちをある程度率いていくようになると、リーダーの在り方も変わってきて、一つアップしたリーダーが率いていかないと、高邁な目標には向かえないということも現実化してくるんじゃないかと。

それからもう一つ、僕よく分からないのは、今そういうふうやっていくということに対して時間軸、一体いつまでに何をやろうとしているのかということなんですよね。今、お国もみんなのレベルをある程度上げて、そういう I T 技術に対してアレルギーを起こさないように、みんな上げましょうというような、まだプライマリーな状態だと思うんですよ。それをさらにやっていって、こんなことぐらいではまだ足りないから、一步先んじて、世界に、それから輪之内らしさをと、こういう時代に次々変わっていくと思うんですけど、そういうときのために、一体いつまでにやろうとしている。スピードを上げたかったら、さっきも言いましたように、人材を入れ替えなきゃ駄目だと、早く結果を出すんなら。それから、先んじるんだったら、もっと投資しなくちゃ駄目だというふうに僕なんかは考えちゃいます。

ただ、そういうところへまだ残念ながら行ってないんじゃないかなと、こういう計画でトライアル・アンド・エラーをしていこうという、その中で出てきて、自分らの目標も明らかになって、自分らとして輪之内らしさをプラスアルファでここまでやることを求めようということが現場から出てくるようになったら本物だと思うんです。ただ、まだそこまで行ってなくて、まず慣れろ、使い方を勉強しましょうと、そういうのが今の現実じゃないかな。寂しいですけど、僕、そのくらいの力量だと今は思っていて、これから町長さんがおっしゃるような目標設定ができるようになれば、だんだん進歩したというふうに思っていただければいいのかなんて思いました。

○木野委員 今、時間軸の話があったんだけど、すごく示唆に富んだ話だと思うんです。

一つ翻って考えてみると、こういう I C T 社会って、そもそもそんな何百年の積み重ねの話じゃないですよ。少なくともハード技術で日本が一頭地を抜いて先頭を走っていた時代は、せいぜい二、三十年前の話ですよ。その間、物を作れなかったところが何を一生懸命考えたといったら、物を作るのではなく使うことを考えて、そっちで逆に必要なものを作らせるというふうに、上下逆になっちゃった。それは、考えてみれば、必要なものを作らせて、それを使うということを覚えたら、どんどん先へ行きますよ、そんなもん。日本の発想って、多分こういうものができたけど、これは何に使えるんだろうねという、P C - 98 ぐらいのときはそんなもんですよ。この箱をだますと何ができるかなという発想でしたよ。

○田中委員 昔はね。

○木野委員 だって、まともにやったら動かないんだから、ここの部分ちょっと、こいつをだますと何とか98でも使えるわみたいな時代があったじゃないですか、ずうっと。今、そんなことを考えなくても、こういうことをやりたいんやと、こういうものが必要なんやと。チップなんか、そのように造ってくるという時代にもうなっちゃった。だから、日本の大量生産的というか、すごい上質なワーカーをつくるには非常にいい教育やったはずですよ。

○田中委員 今まではね。

○木野委員 大量生産の時代、効率的に、うんと言えばああと答えるようなあうんの呼吸で全てが同じ方向へ向かっていくような大量生産時代やったら、そういう教育でよかったし、それが求められてきたと思うんですよ。そこがここ10年、20年の間に急激に変わっちゃったことについて、少なくとも変なところで成功していたために遅れちゃったという。

1周遅れの先頭に出ちゃうというのはよく言われています。まさしくこの世界はそういう世界ですよ。だから、通常のスPEEDで、積み重ねのスPEEDやと思っておると裏切られますよ。だから、立ち止まって考えて、1周回ってきたときに、その先頭に出ればいいので、そうやってすぐ発想の転換を図らないと、今同じスPEEDで走っておって前へ出ようと思ったって絶対に無理ですよ、これは。絶対スPEEDでもう違うんやから。

だから、何に注力してどうするんやという戦略的な思考が大事ですよ。そのための計画だと私は思っている。計画ってそういうものじゃないですか。戦略的思考がなかったら計画って、足し算だけの計画やったら計画じゃないというの。

○松井教育委員会教育課調査官 ただ、タブレットを子供たちに渡した時点で、計画は崩れる可能性はある。というよりも、先生方がどう教えようかという前に、子供んたが自分でずうっと使っていっちゃうんじゃないんですか。そうすると、どうやるのが……。

○田中委員 子供に自由に使うことができる先生が出るかどうかということと、自由に使わせるときに何を勝手にしよるかというて、来年のこのぐらいのときに、やつらこんなことをしよったと困ったこったというのが出てくるようになったら合格なんやけど……。

○松井教育委員会教育課調査官 そう思わなあかんですね。

○田中委員 きれいに来年もこうやって困ったというて、あるべき姿はとかとやっておると思うんやわ。それは教育効果があらへんのやで、生徒はくっちゃくちゃにして壊しちゃって困ってしまったとか、システムをむちゃくちゃにしよったとかいうぐらいでないよ。

○松井教育委員会教育課調査官 だから、学習者用のデジタル教科書という話は出ていっていますので、ということは、もう子供たちに学習のあれを、やれる子はどんどん進んでいくという形態になってくるわけですね。

○田中委員 それで、文科省はそういう説明なんやね。

○松井教育委員会教育課調査官 そうなんですよ。

○田中委員 それでも、それは30人1クラスにおったら、2人か3人はそう行くんよ。もういいというやつが出てくるんよ。

○松井教育委員会教育課調査官 だから、文科省は主体的で深い学びやと言っているんで、主体的でやることを否定はできないので、やる子はどんどんやっていいという話なんでしょう。

○田中委員 そうそう、うん。

○松井教育委員会教育課調査官 だから、ちょっと変わりつつあるんですよ。だから、1人1台でそこにデジタル教科書が入って、例えばそれを家へ持って帰って行ってやれるような状況ができた時点では、もうどんどん進む子は進む、やらん子はやらん、要するに……。

○田中委員 二極化が出てくる。

○松井教育委員会教育課調査官 二極化になる可能性がある。我々としてはどっちへ向いていくかということです。

○木野委員 いやいや、それは公教育ということが前提がある限りに、落ちこぼれを出すということは理念としてあり得ない。

○松井教育委員会教育課調査官 ですよ。

○木野委員 それを前提にしながら、個性なり特殊な能力をどう伸ばしていくかと、それがまさしく問われているので。

○松井教育委員会教育課調査官 そう。

○木野委員 文科省で幾ら言ったって、落ちこぼれをそのままほっておけばいいなんて絶対言わない。

○松井教育委員会教育課調査官 それは口が裂けても言いません。

○木野委員 言うわけない、そんなの。

○松井教育委員会教育課調査官 言いません。

○木野委員 逆に言うと、生活保護を受ける人を増やすだけになってしまうよ、そんなことを言ったら。

○松井教育委員会教育課調査官 そういうことですね。

○木野委員 そうではなくて、普通に生きていける人は、普通に生きていけるだけのスキルを身につけさせないと駄目なんやて。

○松井教育委員会教育課調査官 特にそうなりますね。

○木野委員 公教育はそうやて。その部分で、だからプラスアルファを公教育でやる限界はあるんだけど、でももっと高みをとという部分が今求められているという、そういう話ですよ。

○松井教育委員会教育課調査官 ことになるんですね。

○田中委員 もう20年ぐらい前に有名になった話で、「銀の匙」という夏目漱石の次行くか次ぐらの世代の人が書いた小説があって、それを高等学校の国語か何かでそれ1冊やっただけやってね、3年間で。それで、一生懸命先生がやったら、何ともならん高校が東大何人の高校になってしまったという高校があった。それは文章の中の単語や、固有名詞が出てくると、徹底的に調べるんだってね。その先生が、わざわざ著者のところへ行って、これ何ですかと聞きに

行ったりとやったら、1番になったと。

でも、今求められているのはそれだよ。文章が出てきたやつ、これを調べてという深い学びというやつ。それがそのやり方でいいのか、ほかのやり方かは子供がいろいろ考えようだろうけど、その下地をつくってあるんやね。

○松井教育委員会教育課調査官 いやいや、そこまでいけば、またいいことなんでしょう。

○田中委員 いやいや、そういうふうになってほしいなと思うけど。夢みたいな話をしていたらあかんね。もうちょっと地に足のついた話をせなね。

○市橋（肇）委員 うん。

○田中委員 でも、私立の学校もそのところは悩んでいるわけよ。結局、私立と公のうちらとどこが違うかというたら、私立はいいやつだけ取ってくればいい。公はいろんな人が見えるので、いろんな人にそれなりにやれることをやらんとあかへんで、そこが違うんやね。

○市橋（肇）委員 私学は、もともと自分のところだけだ、独立独歩だ、自分のところはカラーを出すんだということが売りでやっているところですから、公の一般的な公共の教育機関とは絶対的に違うと思います。価値観も異にしていると思います。

○田中委員 でも、伸びる可能性のある子は伸ばしてやりたいよね、芽を摘まずに。

○木野委員 いやいや、だから必要な部分は公教育であろうが提供しないことには意味がないので、それはやるんですよ。それをどうそれぞれの立場で手段として利用していくかということに尽きるので、変な話ですけど、今でも違う見方をすれば、親に金のないやつは高等教育が受けられないという、ある一面の現実を突きつけられている状況ですよ。とんがった教育も金がかかるんやという一面もあるんやね。

その公の教育としてどの部分まで担うかという部分で、その先は、逆に言うと、私は何でもかんでもええから奨学金をつけてやれというんじゃないで、うちの奨学金というのはプラスアルファをしていくために必要な部分にもっとつぎ込むべきやと思っている。親に金がないから行けないよという、そういう明治の初めから来る苦学生のイメージでやる奨学金、それも大事。けど、現代的な意味の奨学金って、それだけの意味やったら単なる貸金業と変わらへん。

だから、昔よくあったね、お大尽がどこか学校へ行けないうちの子供に学費を出してやって、その人が成功したなんていう話があった。

○田中委員 昔はあったね、そういうの。

○木野委員 公の奨学金ってどの部分を担うのという議論。それはどこで元を取るかだけの話なので、物すごい人が出てくれば、その人から別に100万、200万返してもらわなくたって、社会全体で何百億の効果を与えるんなら、そんなもん返してもらわんでもええわという話やけど。

だから、さっき言ったように、うちは別に教育に投資するのに、理屈がきちっとしていれば

お金を削る気なんて全くないんだけど。でも、そのためにはきちっと、予算編成するときには、なぜそれが必要なんや、どういう位置づけでそれを要求するんやということがはっきりしていないといけないよということは、今年の予算の中間段階の査定の中で、今まで以上に聞いています。どういう位置づけなんやと、何の目的なんやと。その目的達成のために、どの部分をこの事業は担っておるんやということ。だから、去年まで聞かなかったこと、変なことを聞くので面食らっておるかもしれんけれども。

やっぱりこれも、別に今までと精神論的には何も変わっていないんやけど、ちょっと切り口を変えて聞いてみただけという。切り口を変えると意外な部分が見えてきて、すごい骨密度の事業とかすかすの事業と見えてきて、それは去年まで同じ姿で見えてきたけれども、ちょっと掘り下げてみたら全く違うな、これ、なんていうのがちょこちょこあるので、ちょっと困りますねという、そういう話なんや。

というようなことで、あまり骨密度の低い議論はしたくないので、特に教育の場面では中身の濃い部分がないと困るので、皆さん、一生懸命やっておられることについて、なお一層という話でございます。

○田中委員 今のGIGAスクールから話を、勝手にそらして申し訳なかったんですけど、GIGAスクールのところで、タブレットを入れていろんな設備を造って、先生方に研修して、それはそれで大いにやってもらおうとして、特に先生方とか若い先生たちが、これが整備されたときに、どういう世界を描いているかというような原点の話ですけど、勉強会、それで大学から誰かを呼んできて話を聞くんじゃなくて、自分たちでこうやって、ああでもないこうでもない、結局結論ゼロでもええと思うんですよ。でも、これをやることに意味があると思うので、そういうちょっと何かやってほしいわ。

○市橋（肇）委員 だから、今、自分らもそうですけど、教育委員会の中でいろんなルールとか、いろんな基本方針だとか何とかあるんですけど、要はあるべき姿というのは何かということをもっと本当に議論すべきだと思うんですよ。

だから、前もちょっとお話したかもしれないけど、実際にHow to doみたいな形でぱっと書いてくるその前に、あるべき姿をまず想定するWhat to doを決めてから、それから落とし込んでくるということをちょっとやらないと、ウエートづけから経営資源の配分から全て何か後手後手に回ってしまうような感じがするんです。その議論というのは、時間もかかるし、ある程度円熟味も必要だし……。

○田中委員 これが必要かもしれんね。

○市橋（肇）委員 いやいや、忌憚のない意見交換をするための必要な手段もまた違ってくるかもしれませんが、常にそういうあるべき姿を念頭に置いて、いろんな現象を見ているという

ことは大事かもしれないですね。

そうすると、町長さんが言われるプラスアルファ、輪之内らしさも、その中にどうしても特徴づけを入れたくなりますよ、人間。何か違ったところ、優位に立つところを入れたくなると。そういう議論をちょっと本当はもっとやるべきだろうと思うんです。

でも、ともすると我々、実務で実践していく人間って、そういうところになかなかとどまっていられないので、企画ばかりやっているような人たちのほうが、そういうことは得意なんだろうけど、片一方でやりながら、それをうまく生かして、あるべき姿を時間を見つけて議論すべきかなあなんてちょっと今反省として思いました。

○木野委員 日本語の言葉でいい言葉があって、何の事業をやるにしても段取り八分やと。

○田中委員 昔言っていた。

○木野委員 だから、目的もはっきりしない、ツールもはっきりしないようなものは、幾らやっておったって空回りするだけで、目標には全然届かないよと。今おっしゃったように、いろんなことを目標をきちっと定めて、そのための手段をどうするんやとか、いつまでにとか、さっきからかなりこの部分については時間軸の議論が出ているんだけど、時間軸、実は一番大事やと思っています。時期の遅れたものをやったって、それは意味がないものになっちゃうので。だから、そういう意味で段取りというのは大事やと思うよね。

日本人は商売にしても何にしても世界に先駆けているいろんなアイデアで商売をやってきた過去の実績があるので。だから、全然能力的に劣っているなんて思わないので、今ちょっとどこへ資源を集中するかという、その方向性がぶれているというか、ちょっと中央も通じて分かっていないなという気がするので、せめて我々が我々自身の北極星をきちっと見ていないとぶれますよ。今ここにおる私たちがぶれるということは、子供にしっかりとした目標を示せないということとイコールなんで、せめてここでの方向性というものをきちっと一致した中で我が町の教育ということにつながっていかないといかんという気はしています。

さっき人事異動の話があったけど、私、別にここで育った人がよそへ行って能力を発揮してもらったっていいと思っています。それに代わる人をずうっとローテーションでもらってきてやっていけば、現場の底上げにつながるじゃないですか。ここで培ったノウハウをよそへ行ってどんどん生かしてもらえばいいので。そういう生産工場になるんやったら、ここ大いに結構じゃないですか。私いつもそう思いますよ。

そういう意味で、少しスピード感を維持しながら、楽しくやれるようなものが出てくれば一番いいのかなと思っていますけど。

○箕浦委員 なかなか今コロナコロナとあって、本当に打合せ会とか研修会とかをやらなあかんですけども、何かその辺りが雰囲気としてそれがちょっとマイナスというか、目標をずらし

ておる感じはします。やっぱり共通理解をして、みんなが意見を出し合ってやれば方向も出てくるし、これは大事にしていかなあかんと思います。

○田中委員 この間、同級生とランチを食べたときに、ちょうどテレビで放送されていたのが御飯を食べるときは黙々と黙って食べてマスクをしてしゃべると。

○木野委員 総理大臣がそんなことを言ったよね。

○田中委員 これは、できるよ。酒はあかんかもしれんけど、ランチぐらいやったら。黙って黙々と食べる。

○木野委員 いいけど。ただ単に集まってしゃべらずに飯食って終わりだけなら、何のために集まったとって。

○田中委員 あかんあかん、しゃべりに来ている。そんなもん。誰がそんな同級生と行って黙って帰ってくるの。

○野村教育委員会教育課長 そのほかよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○野村教育委員会教育課長 長時間にわたり、たくさんの貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。これからの教育に役立てるよう努力してまいります。

○田中委員 本当に努力しやあよ。

○野村教育委員会教育課長 はい、頑張ります。

これをもちまして、第1回輪之内町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

(午後8時44分 閉会)